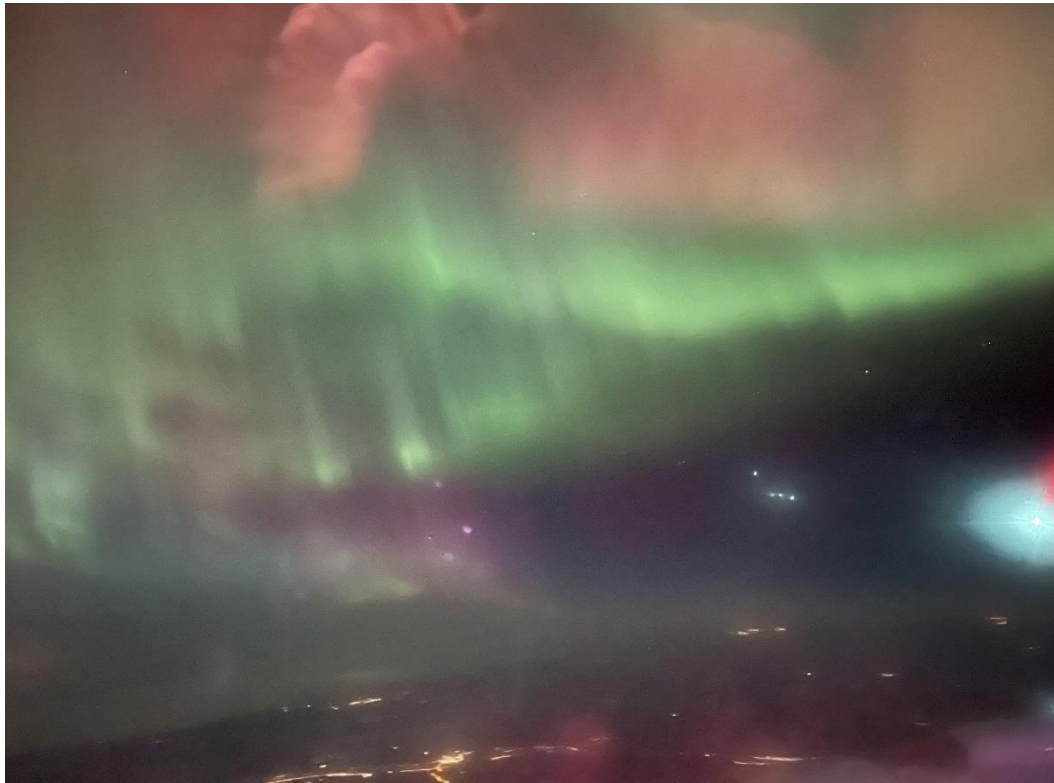




会務通信

会員数/個人会員 1,061 名 法人会員 63 法人 (5月1日現在)



撮影：近藤 正行

INDEX

- ◆ 会長再任あいさつ 会長 梅村 守 2
- ◆ 副会長再任挨拶 副会長 岸田 庄司、川合 秀幸、大岩芳伸、諸岡佳昭 4
- ◆ 支部長としての抱負 8
 支部長 三浦 章(名古屋東)、近藤 誠(名古屋西)、武下 文之祐(名古屋北)
 早川 達也(昭和)、佐原 法人(熱田)、栃倉 勲(一宮)、柴田 学(知多)
 中根 晃(岡崎)、川澄 佳洋(豊田)、臼井 芳隆(東三)、松井 章泰(新城)
- ◆ 法務省が公開する地図 XML データの取扱いについて(留意事項) 15
 業務部理事 中津川 翔紀
- ◆ 理事会オブザーバー参加 広報委員 國廣 明 17
- ◆ 連載 第10回 古いモノを愛で、今の便利さを知る 広報委員 川北 貴利 18
- ◆ 事務局からのご案内 22
- ◆ 編集後記 23

会長再任あいさつ



会長 梅村 守

令和5年度の定時総会において会長に再任いただきました。多くの会員の皆様のご推薦をいただき、この場をお借りしまして感謝を申し上げます。

前期に引き続き、土地家屋調査士制度の維持、発展のため、また会員の皆様が明るい調査士人生を歩んでいただけるよう尽力させていただきます。調査士の使命である不動産の表示に関する登記及び土地の筆界を明らかにする業務の専門家としての能力の向上を図ること、そして本会の目的である会員の品位を保持し、その業務の改善進歩を図るための会員の指導及び連絡に関する事務を確実に行っていくことが最も重要であると考えています。その上で、特に次の3つの内容について取り組んでいきます。

まずは、土地家屋調査士の知名度・認知度を向上させることであります。調査士制度にとって最も深刻な課題は、受験者数の減少とそれに伴う会員数の減少の問題です。受験者数の減少は、調査士となる人材の質の低下をもたらし、業界全体の質の低下に繋がります。また、会員数の減少は、仕事の担い手が不足することとなり、他の業種にその職を委ねざるをえないという国の判断に繋がりがねません。そのためにも調査士の知名度・認知度を向上させ、受験者数を増やし、会員数を増やしていくことが最重要課題であります。そして土地家屋調査士の名前を広く知ってもらうことはもちろんですが、社会貢献をはじめとして、あらゆる事業を通して、認知度の向上を図っていきたいと考えます。

早速、この事業の一環として、8月1日(火)、ウインクあいち大ホールにおいて、**第23回あいち境界シンポジウム**を開催いたします。テーマは、「関東大震災から100年 どうする防災！～命と社会をまもり 未来へつなぐ～」。近い将来、確実に起こるとされる「南海トラフ巨大地震」。いま取り組まなければならない対策はなにか。命と社会をまもり未来へつなぐために、土地境界の専門家である土地家屋調査士が貢献すべきことはなにか。

「どうする防災」をテーマに福和伸夫名古屋大学名誉教授の基調講演、及び各分野の専門家によるパネルディスカッションを通して、狭あい道路の解消と境界確定の重要性について考え



第23回あいち境界シンポジウムポスター

ていくものとなります。会員の皆さんも大いに関心がある内容だと思しますので、ご来場をお待ちしております。

次に、業務領域の拡大を推進することです。調査士が筆界を明らかにした上で、その筆界にまつわるあらゆる境界の問題を現場において迅速に解決するまでの業務に拡げていくことを始め、あらゆる方面において業務の拡大の可能性を探っていきます。

三つ目は、研修の強化であります。ここ数年の定例研修の参加者数を見ますと、1,000人を超える会員数にもかかわらず、参加者数が300名に届かず、全体の30%にも満たない状況が続いております。これは研修を受けなくても業務がそれなりにできてしまうという過信が、苦情や綱紀事件に発展している事例の多さに繋がっていると考えざるを得ません。こうしたことで調査士の信頼を損ねるようなことになっては、制度発展の足を引っ張ってしまいます。会員の皆様が研修に参加しやすい環境づくりに努め、内容の充実と参加率の向上を目指してまいります。

最後になりますが、補佐していただく副会長には、総務部担当として豊田支部の岸田庄司会員、財務部と社会事業部担当として昭和支部の川合秀幸会員、広報部担当として豊田支部の大岩芳伸会員、業務部と研修部担当として一宮支部の諸岡佳昭会員に担っていただき、また会長指名理事には、壁谷みつるさん、名古屋東支部の鈴木元和会員、名古屋西支部の樹神朗会員、名古屋北支部の田中智司会員、一宮支部の後藤寛明会員の5人をお願いし、愛知会のために尽力していく所存でありますので、2年間どうぞよろしくお願い申し上げます。



令和5年5月26日(金) ホテルグランコート名古屋「ザ・グランコート」

副会長再任挨拶



副会長 岸田 庄司

二期目の梅村会長の指名を受け、5月26日の定時総会において副会長に選任いただけたことを、この場をお借りして感謝申し上げます。

昨期は総括副会長として全体を見てきましたが、今期は長年経験してきている総務部担当に復帰することとなりました。

組織改革はいまだ道半ばであり、組織として役員個人として、また会員の皆様にとってもスムーズで有意義な会務運営ができるよう工夫を続けていきたいと考えています。また事務局の体制も令和5年度から6年度にかけては、大規模な配置転換も予定していて、その中において、より働きやすい環境整備を心がけていきたいと思えます。過去の会務を振り返りマニュアルの完備も進めていきます。

最も頭を悩ましている、近年増加してきている苦情や非違行為案件は会務に支障をきたしているばかりか、私を含め担当役員にとっては大きなストレスとなっていることも確かです。

役員歴13年目となりますが、経験したことのないような信じられない事案が続いています。引き続き担当役員として重点的に取り組みたい所存です。



千余名の会員の皆様も日々煩わしく困難な業務に立ち向かい努力を続けていることと存じます。その中でも職責や生きがいを見出し自身の幸せを追求しながら生きているのではないのでしょうか。

私が開業した当時と今とでは一つの業務に費やす時間が全く違い、また全体では業務量も衰退しているとは言えず、多くの会員の方は忙しく過ごされている中、役員を引き受けていただいた会員の方には感謝しかありません。

近年の役員は志が無ければ、ほぼメリットは無いと思えますので、少しでも楽しい時間となるよう盛り立てていき、後継者の育成にも尽力したいと考えています。

そのためにも皆様のお知恵とエールを頂くことが何よりの励みとなりますので、今後より強くご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



副会長 川合 秀幸

この度、令和5年度定時総会で皆様にご承認いただき、再び副会長に就任することになりました昭和支部の川合秀幸でございます。先期は総務部と財務部を担当させていただき、振り返ってみますと反省するところがたくさんあって、2年経った現在も副会長という職責の重さを日々痛感しているところですが、会員の皆様や役員の方々からのご支援とご指導をいただき、また、事務局職員サポートのおかげで、なんとか1期2年間を乗り切ることができましたことに、この場をお借りして感謝申し上げます。

さて、今期は財務部と新たにスタートする社会事業部を担当することになりました。それぞれ事業計画に沿って進めていくこととなりますが、財務部では主に支部役員等の報酬等に関する事務手続きについて、支部と連携を図りながら進めてまいります。また、特定資産積立金や役員報酬の見直しも検討していきます。引き続き会計規程を遵守し、適正な会計処理に努めてまいります。財務部を担当するという事は、一般社団法人調査士愛知協働会も担当するという事になり、こちら早く設立当初に掲げた本会研修会等への協賛、書籍等の頒布など、在任中に実現させたいと思っています。



社会事業部では、所有者不明土地問題に関連した地域福利増進事業を加速させるためのPTを組成し、スピード感をもって進めてまいります。寄附講座については、寄附講座運営委員会と連携して土地家屋調査士を目指す学生を、一人でも多く増やすよう実施してまいります。災害時対策運営委員会は、被害家屋認定に関する研鑽と、安否確認の実践的な方法を確立したいと考えております。あいち境界問題相談センターは、申立件数年間10件以上を目標に利用促進を図る方策を検討し、境界紛争の解決に貢献できればと考えております。

私自身、微力ではありますが、今期2年も他の副会長と共に梅村会長を支え、愛知会の運営並びに土地家屋調査士制度の発展、知名度・認知度の向上に注力してまいりたいと思いますので、会員の皆様におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



副会長 大岩 芳伸

令和5年度、令和6年度、副会長を務めさせていただきます豊田支部の大岩芳伸でございます。調査士制度発展と調査士の知名度・認知度の向上に1期2年、副会長の職務を遂行いたしますのでよろしくお願いいたします。

今年度も私が担当いたします広報部は令和3年度、令和4年度はコロナウイルス感染症の関係で、外部にむけた広報活動は縮小しておりましたが、昨年から徐々に活動を再開できるようになりました。今年5月からは2類から5類に感染症の位置づけが移行し、コロナ前のように活動ができるように期待しております。



以前にも紹介させていただきましたが、現在、広報部では広報スキルの習得・蓄積のため、月に1回、Zoomによる広報戦略会議を行っております。会議で習得したノウハウを生かし、SNS等を活用し調査士試験受験者、登録者数増加につながる広報活動を進めていきますのでよろしくお願いいたします。

また調査士に一番近い補助者同士の交流をする場が今までなかったため今年度、実施に向けて検討してまいります。会員の皆様におかれましては、開催が決定しましたら、その時は補助者に参加していただけるようよろしくお願いいたします。

本会会館は立地条件が良く国道22号線に面しており、地下鉄浅間町駅にも近いことから令和4年度から会館東側壁面を利用し懸垂幕を設置しました。

今年度も引き続き、県民の皆様には私たちの制度を知ってもらうように懸垂幕を利用した制度広報にも力を入れていきたいと考えております。

最後になりますが、広報活動はすぐに成果があらわれてくるものではありませんが、今年度も地道な制度広報を行い、広く私たちの制度の周知を図るために広報部、広報委員一同、一丸となって協議を重ね制度発展のために活動していきますのでよろしくお願いいたします。



副会長 諸岡 佳昭

梅村会長から指名を受け、もう1期、副会長を務めさせていただくことになりました。支部の皆様をはじめとして、多くのご支援をいただきまして、ありがとうございました。

令和5年度から現在の企画部を、業務部と社会事業部に分割し、6部会制へと正式に移行する予定です。私は引き続き、業務部と研修部を担当させていただくこととなります。

令和4年度は「表示に関する登記における筆界確認情報の取り扱いに関する指針」が定められ、「ネットワーク型RTK法による単点観測法に基づき行う登記多角点測量マニュアル」により設置された登記多角点を使用して地積測量図を作成できるようになり、G空間情報センターを介して登記所備付地図のXMLデータが一般公開されるなど、業務に直結する新たな情報が数多く発信されました。

今後も民法の一部改正等による情報が順次発信されると思われまますので、いち早く情報伝達するとともに、業務部メンバー等で協議をし、日常業務を行う上で必要であると考えられる場合、研修会で解説の場を設ける等の流れを作っていければと考えます。

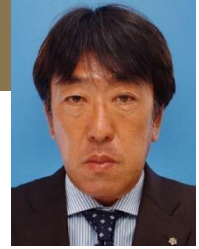


また研修部に関しては昨今、綱紀案件が多発し、再発防止策に追われる日々であります。ここで原点に立ち返り、実務研修、倫理研修、補助者に関する研修を行っていきたいと考えます。特に補助者に関しては「補助者に関する愛知会における指針」が作成され、令和元年度の総会資料に掲載していますが、「補助者に関する愛知会における指針」、「土地家屋調査士倫理規程」「補助者規則」には書かれていない日常業務における補助者の役割等を具体化するとともに、補助者は一番身近な未来の土地家屋調査士でもありますので、本職への目標に対するメンタルサポートも必要ではないかと考えます。

令和4年度に引き続き、会務に携わる仲間の負担を分散し、平日の貴重な時間を割いて理事会、部会等に参加していただくわけですから、活発な意見が飛び交いつつも、楽しい会務運営を目指し、本会役員のイメージを大変から楽しくやりがいのあるものに変えることができれば、次世代へのバトンタッチもしやすくなるのではと考えます。

執行部に対して厳しい意見をいただくこともありますが、なるべく暖かい目で見守っていただき、次世代への引継ぎに関する環境づくりに、会員の皆様のご理解ご協力をいただけることを切に願います。2年間どうぞよろしくお願いいたします。

支部長としての抱負



名古屋東支部長 三浦 章

4月の名古屋東支部総会におきまして、2期目の支部長に選任されました三浦章でございます。支部長1期目の2年間は、コロナ禍により支部事業が思うようにできない状態であり、支部会員との交流も十分できないまま過ぎてしまいました。

今年に入り新型コロナウイルスの分類が2類相当から5類に引き下げられたことにより、ようやく通常の活動ができるようになるのではないのでしょうか。

今期は、支部研修、親睦事業を充実させ、支部同好会活動、支部内の地区会活動の支援を行うことにより、ベテラン会員から新入会員まで、すべての支部会員の交流、情報交換できる場を提供していき、会員同士の親睦を深めていきたいと思っております。

新支部役員と共に2年間、支部運営に取り組んでまいりますので、支部会員の皆様のご支援をお願いするとともに、支部事業へ積極的に参加していただき、支部の活性化にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。



名古屋西支部長 近藤 誠

この度、名古屋西支部総会において、新支部長に選任されました近藤誠です。平成16年入会の48歳。この業界においては若手の分類になりますが、諸先輩方と若手会員の橋渡し役になるよう努めていきたいと思っております。

よく言われていることですが、オンライン化が進むにつれ、調査士同士が法務局で顔を合わせる事が少なくなりました。以前であれば、その場でちょっとした相談や雑談などができていました。

また、追い討ちをかけるように、ここ数年のコロナ禍により、一層、会員間の交流という機会が奪われてしまいました。現在問題になっている会員の不幸事も、ちょっとした相談できる仲間、頼れる仲間がいれば防ぐことができたかもしれません。

そこで、私の任期の2年間は親睦事業をはじめとする会員同士が顔を合わせられる事業を増やし、会員同士の交流・親睦が図れる機会を増やしていきたいと思っております。

それには、魅力的な行事を企画することが重要であることはもちろんのことですが、当支部の会員におかれましては、「ちょっと参加してみるか」という気持ちでご協力いただきたいと思います。

どうぞ、2年間よろしくお願い致します。



名古屋北支部長 武下 文之祐

名古屋北支部の武下文之祐（たけした ふみのすけ）と申します。

本年4月から2期目に入りました。支部運営におきましては、コロナ前と同様に本会との連携を強化して研修や情報発信を実施するとともに、他支部の会員の皆様との交流も含めた親睦行事や同好会活動を支援していきたいと思っております。

私が一番取り組みたいと思っているのは継続的な地域への社会貢献活動です。具体的には春日井市、小牧市、北名古屋市、豊山町で災害が発生した場合にできる支援活動を事前に検討することと、そのための備えと人材育成をすることです。

継続的な活動にするためには支援する側とされる側の両方が地理的に近くにいることが非常に重要と考えており、その意味で支部ならではの活動であるとともに、支部内での会員間の繋がりが希薄になってきているように感じられる昨今、ベテランから新人まで支部会員全員が一丸となって取り組むことのできる意義ある活動だと考えております。

支部会員全員が一丸となるためには支部内における「地区会」の存在が非常に重要な役割を果たすと考えており、「地区会」が盛り上がらないことには支部全体が、ひいては愛知会全体が盛り上がることはないと考えております。

これまで支部全体での行事として開催される研修会や旅行、ソフトボール大会だけに力をいれてまいりましたが、今後は各「地区会」においても交流活動、親睦行事を企画・検討していただき、それを盛り上げていくために必要な支援に注力したいと考えております。

今後とも未来志向で前向きなご提案と可能な限りのご協力、積極的な支部活動へのご参加をお願いしたいと思います。2年間、どうぞよろしくお願いいたします。



昭和支部長 早川 達也

今年度、昭和支部総会において支部長に選任いただきました昭和区の早川と申します。

土地家屋調査士登録から10年目、本会役員の経験は無く昭和支部役員として6年間副支部長を務めておりました。今年度より吉田真丈前支部長から引き継ぎ、支部運営に尽力いたします。

吉田前支部長の困難な支部運営をみてきた私に支部長の職務が務まるか身が引き締まる思いですが、支部内外にかかわらずご教授賜りながら、いち早く慣れ円滑に職務を果たしたいと思います。

当支部は事業方針に則り、長年にわたる支部行事により親睦を重ね、会員間の交流に参加しやす

い空気を醸成しております。近年は会員間の交流機会が減少し、ストレスを受けやすい環境であります。従来よりも先輩会員、後輩会員、転入会員を取り込み相互扶助協力の関係を強化し交流を深めたいと考えております。

また、当支部は6月10日開催予定の「支部対抗親善ソフトボール大会」の主幹として皆様のご助力を得て準備しております。新支部長として最初で大きな親睦行事となりますが、4年ぶりに開催すべく尽力してまいります。

若輩者であります。2年の任期を全ういたします。どうぞよろしくお願いいたします。

熱田支部長 佐原 法人



令和5年度の定時総会にて熱田支部支部長に選任いただきました佐原法人です。勤儉力行の気持ちをもって、支部運営に務めてまいりますので、ご支援とご協力をお願いいたします。

熱田支部では、私が入会した28年前から支部会員間の親睦を図り、絆を強め、相互研鑽に努めるという事業計画で支部運営がされてきましたが、2020年のコロナ感染症の拡大、緊急事態宣言、まん延防止等により行動が制限され、思うような支部活動ができなくなりました。

しかし、今年5月8日にコロナウイルス感染症の法律上の位置づけが「5類感染症」と季節性インフルエンザと同様の扱いとなり、これにより行動制限もほぼなくなったため、コロナ以前のベテラン会員、新入会員と新旧融和した熱田支部の姿を取り戻すことを目標に掲げ支部運営を行いたいと考えます。

具体的活動を掲げ、確実な情報伝達や親睦事業、研修事業、そして社会貢献事業など様々な活動を行い、支部組織、支部会員ともに成長でき、次世代役員の負担が軽減するような組織の構築、運営を目指したいと思います。

これまで支部の諸先輩方が、和を重んじて活動されたことを引き継ぎながら感謝と敬意を表し、熱田支部の活動を活発に行ってまいります。

皆様の協力が得られるよう私自身が汗をかいていきます。

引き続き、支部会員の皆様にご支援とご協力をお願いいたします。



一宮支部長 杉倉 勲

本年4月16日の一宮支部総会におきまして、支部長に再任いただき3期目の支部長となりました杉倉勲と申します。1期目、2期目と支部会員、役員の皆様にはご支援、ご協力をいただきましたこと感謝いたします。

2期目も新型コロナウイルス感染症の拡大が収まらず、支部事業の大きな柱である交流親睦事業、研修事業を計画どおりに進められなくてとても残念でした。

ただ、令和4年の年末に新型コロナウイルス感染症が少し収まりましたので、支部親睦旅行を開催することができました。多数の支部会員の皆様に参加いただき、ありがとうございました。

また、令和2年から本日までに入会された会員の皆様には、以前のような支部事業に参加する機会がなかったと思いますが、本年度から以前のように「会員の交流と親睦」に力を入れ、研修会・懇親会を行い、調査士資質の向上とともに、会員間の交流をはかっていきたいと思います。歳のある先輩や後輩と縦横の交流のできる場を提供していきたいと思います。

支部役員は新型コロナウイルス感染症の拡大により事業ができなかったこともあり、大多数の役員の皆様に再任をお願いし、充実した支部事業を運営していただくこととなりました。

今後も支部運営に精一杯取り組んでいきますので、支部会員の皆様には、ご支援ご協力をお願いするとともに、とにかく支部事業にご参加いただき、会員同士の交流・親睦をはかっていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



知多支部長 柴田 学

先の4月28日支部総会において2期目の支部長に再任いただきました。

支部総会には会員87名中40名もの方々の出席をいただき、4年ぶりに来賓を迎えた総会と賑やかな懇親会が開催できました。久しぶりに多くの仲間を前に、気を引き締め直して支部活動に取り組んでいく責務を再認識しました。

一昨年・昨年と自粛により十分な支部活動ができず、淋しい活動状況でしたが、引き続き支部会員同士が疎遠になり孤立することのないように配慮しつつ、今年度からは通常の形で会員間の交流・親睦・研鑽を図って行きたいと思います。

支部会員の皆様には、支部活動へのご理解・ご協力をお願いし、久しぶりの親睦旅行も計画しています、各事業へふるって参加をいただけますようお願い申し上げます。



岡崎支部長 中根 晃

4月21日の支部総会において4期目の支部長職を拝命いたしました岡崎支部の中根 晃です。よろしくお願ひいたします。

さて、これまで岡崎支部で支部長職を4期務められた歴代支部長は、松平裕実前支部長と清水誠一元支部長の2名になりますが、私の場合はこれまでの3期6年のうち、近3年はコロナの影響で充実した支部事業ができる状況ではなく、会員間の交流という意味では歴代支部長のみなさんとは比べようがないほど低い活動内容しか残せていませんでした。

しかしながら今年度は、幸いなことにコロナに対する政府の対応も緩和され、それ以前のような参集型の研修会や親睦事業・同好会活動等を行うことが可能になりましたので、会員間の交流の場を充実させ、専門知識の向上や業務の遂行に役立つ情報交換が盛んにできる環境づくりに心掛けていきたいと思ひます。

また、これまで支えていただいたみなさまへの恩返しのためで世代交代を見据えた後任の育成に取り組んでいく所存でございますので、これまで同様、ご理解とご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。



豊田支部長 川澄 佳洋

この度、豊田支部の支部長に就任いたしました川澄佳洋と申します。

小嶋前支部長を始め、歴代の豊田支部長の方々の顔を思い浮かべると、私には少々荷が重い気がいたしますが、支部会員の負託に応えられるよう支部役員と共に一丸となって支部事業に取り組んでいけたらと考えています。

豊田支部は、会員数が70名程で他支部と比べると小規模ではありますが、その分横の繋がりが強く支部内のほとんどの会員と面識があり、支部総会や忘年会、支部研修会等の支部事業への参加率も高くアットホームな雰囲気を持った支部です。

私自身も20年前に入会した当初は、ほとんど知り合いがいない状況でしたが、これらの支部事業に参加したおかげで、たくさんの仲間と出会うことができました。ところが、ここ数年、新型コロナウイルスの影響により支部事業の大半が中止となったことで、支部会員同士が交流する機会が失われ、若手会員が支部に溶け込み難い状況となっています。

そこで、今年は皆が交流する機会を増やすべく、研修会や懇親事業に注力する中で、支部役員のみならず若手の会員にも運営側に参加してもらうことで、より多くの会員が気軽に参加できるような雰囲気を作り出せたらと考えています。

まだまだ未熟者ではございますが、精一杯頑張りますので、よろしくお願いいたします。



東三支部長 白井 芳隆

4月21日の支部総会におきまして、東三支部長に選任いただきました白井芳隆です。恩師でもある山口前支部長の後任ということで大変身の引き締まる思いではありますが、新たに選任された支部役員と共に全力で支部運営に取り組んでまいりますので、支部会員の皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私ども東三支部は、愛知県の東端に位置する地理的要因もあるとは思いますが、良い意味で独自の強い支部だと認識しております。帰属意識の高さや、事業活動の充実などはまさに歴代の支部長が積み上げてきた組織力のお陰によるものであり、新任の支部長としてこれほど有難いものはありません。今後も良質な伝統を踏襲するとともに、時勢をしっかりと見定めた上で課題に対しても取り組んでまいります。また、一地域で閉鎖的になることが無いよう支部外にも目を向けさせていただきます。他支部の良いところを学ばせていただき、支部に還元することも私の役務であると考えておりますので、支部長会議を通じ積極的な交流を図ってまいります。

最後になりますが、私の支部長としての理念は「利他」であり、支部会員が安全かつ安心して業務を行うことができるよう1期2年間尽力いたす所存でございますので、皆様のご支援とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



新城支部長 松井 章泰

気付けば、支部長会では一番の古株となっていました。今期から、東ブロック長も拝命しましたので引き続き、少しでも皆様のお役に立てるように、頑張りたいと思います。

さて、調査士の業務は、資料調査や、現地測量、画地調整等、複雑多岐に亘る作業の連続ですが、

境界確定に至るためには、市役所や法務局、隣地所有者と調整する力（交渉力）が、とても大切な事だと日々、痛感しております。

いま、世界ではウクライナとロシアの紛争が続いておりますが、もしこの問題を「境界紛争」と捉えたとき、土地家屋調査士の能力があれば、この争いは止められる可能性があるのではないかと自負しております。争いは、正義と正義のぶつかり合いであり、当事者では止められないとき、中立な立場の第三者がその間に入る必要があります。そのとき、大切になるのが「交渉力」だと思うのです。

現在、新城支部には「交渉力」のある先輩会員が多数在籍しているので、平和な街が維持されています。これからも争いのない平和な街を目指して、支部活動が円滑にできるよう、職務を全うしたいと思います。



法務省が公開する地図 XML データの取扱いについて(留意事項)

令和5年1月に登記所備付地図のXML形式のデータがG空間情報センターを介して一般公開されました。令和5年4月には、GISソフトウェアなどで扱いやすいシェープファイル形式、GeoJSON形式に変換したデータ（公共座標系が付与された地図のみ）が追加公開されました。

利用されている方はどのように活用しているのでしょうか。まだ利用されていない方も少なくないと思います。

公開から数か月が経ち、私なりの地図データの活用例と利用方法を紹介します。利用に当たっては土地家屋調査士が自らの責任で判断し利用することが前提です。これを踏まえた留意事項を末尾に挙げておきます。

私の具体的な活用例は、以下のとおりです。

- ・公図の閲覧として
- ・見積のための資料として
- ・ブルーマップの代替として
- ・公簿情報をまとめた調査素図として
- ・公図が何葉にもなる場合に連続図の作成を省略するため
- ・公図地区での公図の精度（地域差）を確認するための広域公図調査として
- ・隣接する公図の整合を確認するため
- ・山間部などの広大地の場合に、地形図と公図を重ねて位置を特定するため
- ・地図の座標値種別が測量成果の場合、官公署で入手した座標値の手入力を省くため

次に利用方法です。この情報の良い点は纏まった区域の地図データであり、この地図データが加工可能な形式であることです。そして無料であることです。

私はXMLを使用することが多く、ソフトウェアを使用してSIMAとSFCに変換します。（XMLを直接読み込める測量CADシステムもあります。ソフトウェアは有料も無料もありますが、信頼できるものを使用することが重要だと思います。）

SIMAは測量CADシステムで読み込むと、各点の座標値、各土地の地番及び区画が入力されます。今まではCADで公図をラスター読み込みし、トレースし、座標付けし、区画を作成していた作業が簡単になりました。座標や区画が必要ない場合は、SFCをCADで読み込み使用していません。公図のトレースの作業が不要になりました。

なお、XML 検索用 CSV ファイルは Excel で開くと地番が日付で表示されてしまいます。Excel で起動したあとに CSV ファイルを取り込むことで地番が表示され、フィルターによる検索が可能になります。

シェープファイルは CAD で直接読み込めることが多いと思いますが、公図地区のデータは公開されていません。

GeoJSON は地理院地図（電子国土 Web）等で読み込めるため、測量 CAD システムがなくても利用できます。標準地図や航空写真等と重ねられるため便利です。ただし、公図地区のデータは公開されていません。また、広域データであるため重い印象です。

最後になりますが、留意事項です。

- ・今回、公開された地図データは令和4年1月から2月時点での情報です。現時点で1年以上前の地図又は地図に準ずる図面であるため、分合筆や地図訂正などが行われている可能性があります。また、証明機能もないため最新の公図で確認することを勧めます。
- ・地図データは登記所備付地図を基にした情報であるため、明治時代から現代までに作成された地図であり、作成時期等によって精度が異なります。このため、基本的には今までの登記所備付地図の精査と同様に扱います。
- ・登記所備付地図には、座標値種別が測量成果と図上測定があります。測量成果の場合、通常は地図データの座標値と地籍調査等の測量数値成果と一致します。しかし、図上測定の場合、地図データの座標値も図上で読み取った座標値です。そのため地籍調査等の測量数値成果の資料がある場合はこれと一致しないこととなります。官公署や資料センターの資料で数値を確認する必要があります。
- ・座標値種別が測量成果の中には日本測地系から座標変換したものがあり、地図データも同様です。日本測地系の測量成果の扱いと同様に、座標変換が万能でないことに留意し、座標変換方法又は復元方法を検討する必要があります。
- ・地図に準ずる図面の場合、地図データは任意座標で構成されています。これは、公図をトレースした時と同様であり、屈曲点の位置及び辺長は絶対値として扱えません。
- ・登記所備付地図の電子データであるため、地積測量図とは必ずしも一致しません。
- ・利用に当たっては、登記所備付地図データ利用規約に同意のうえ、利用してください。
- ・一般の方も地図データを入手できることから、これを基にする境界の主張等が想定されます。他の資料と同様に理解を得られるような説明に努めなければなりません。

（業務部理事 中津川翔紀）

理事会オブザーバー参加

日 時：令和5年4月17日（月）午後1時～
会 場：愛知県土地家屋調査士会会議室

令和5年4月17日広報委員として理事会に参加してきました。オブザーバーなので、詳細な協議内容は分からないところもありましたが、参加してみて感じたことを記事にしたいと思いません。

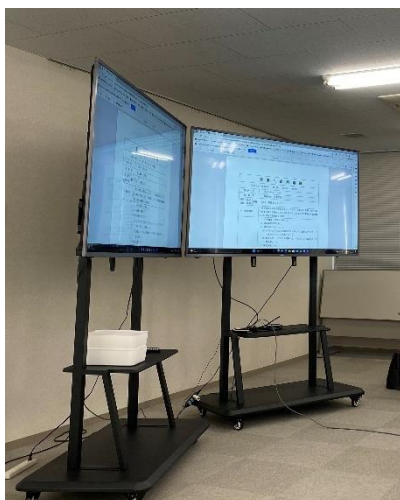
当日は、会長1名、副会長4名、専務理事1名、常任理事7名、理事8名、監事1名。オブザーバーとして、連合会理事1名、広報委員1名。計22名の理事会メンバーと2名のオブザーバーメンバーで開催。1名の理事の欠席があったため、21名で理事会が開催されました。

一番感じたことは、人数が多いなということです。現在のような体制になったのは、数年前と聞きましたが、会議を見ていると、4人の部長（総務部、財務部、企画部、研修部の4名。広報部は副会長が兼任。部長は常任理事である。）の発言に対して、会長、副会長が意見を述べる形で、副会長は、担当の部長に対してフォローを入れている感じでした。


その他の理事は、理事会の前の部会で十分協議がされているためか、理事会では、あまり発言がなかったように見受けられました。人数が多いため、全員が発言をすると収拾がつかないの、意見を控えているようにもみえました。理事は部会で活躍してもらおうということで、最高決定機関である理事会はもう少し少人数でもよいかな？と思いました。

本会組織について、よく理解していない会員の感じたことですが、役員の皆様が愛知会、ひいては土地家屋調査士を魅力的なものにしていこうという熱意を感じることができて、とても刺激になった1日でした。

（広報委員 國廣 明）



古いモノを愛で、今の便利さを知る

連載 第10回
広報委員の
コラム 

今さら身の回りの便利なモノを否定するつもりはありません。今後も使いこなしていくでしょう。さらにはどんどん進化する世の中の流れに必死に食らいついていく必要もあるでしょう。でもその進化の元になったちょっと古いモノのことをたまには思い出してみませんか。それらは電子部品、半導体はもちろん電池さえ必要ないものです。

【アリダード】

平板測量法で使用する「田村式プリズムアリダード」が特に有名です。有限会社東京測量術研究所田村工場で作られていたため通称「田村式」と呼ばれていたようです。このような重厚な木の箱に一式収められています。中には「田村の斜平距離換算表」「田村の簡易スタジア表」なる虎の巻も入っています。初めて覗いたときはその高倍率さ、明瞭さに驚いたものです。ただし実際に現場で使用したことはありません。今では自宅で飾り物として置いてあります。オール金属製のズッシリしたただずまいはインテリアとしても映えるモノです。



【計算尺】

日本製としては「HEMMI 計算尺」が有名で、練習用、学生用、事務用、技術用など用途によって多種作られていました。見たことがない人にとってはこんな板切れで（実際は竹製です）なにが

できるのかと思うのですが、こんな板切れで関数計算までできます。メーカーのヘンミ計算尺株式会社は今でも計算尺を作って販売しています。

実務では関数電卓を使用していますが、晩年商売をしていた私の祖父は使いこなしていました。祖父は子供用の木製の滑り台を作って販売していたので、三角関数計算でも使用していたようです。ちなみに iPhone の標準電卓アプリは横向きにすると関数電卓になります。



【カメラ・照度計】

対象物の照度を測り適正露出を知り、ISO 感度をセットしたカメラ側の絞り値・シャッタースピードを出来上がりの像を想像してセットする。ピントダイヤルを回し、呼吸を整えてシャッターを押す。1回シャッターを押すのになんと多くの手順を踏んでいたことか。そのようにして光を読み、フィルムを現像してきれいに写っていたときの喜びと感動はひとしおです。そんなやっかいな手順を考えることなく実務では便利なデジタルカメラを当然使用しています。フィルムではないので撮影枚数の限度も気にすることはありません。そのデジタルカメラも最近ではスマホに食われているようです。

趣味ではデジタル一眼レフカメラと完全マニュアルフィルムカメラを併用しています。このニコンFとローライ35は自分の生まれ年のもので、たまに持ち出しその不便さを楽しんでいます。



【ストップウォッチ】

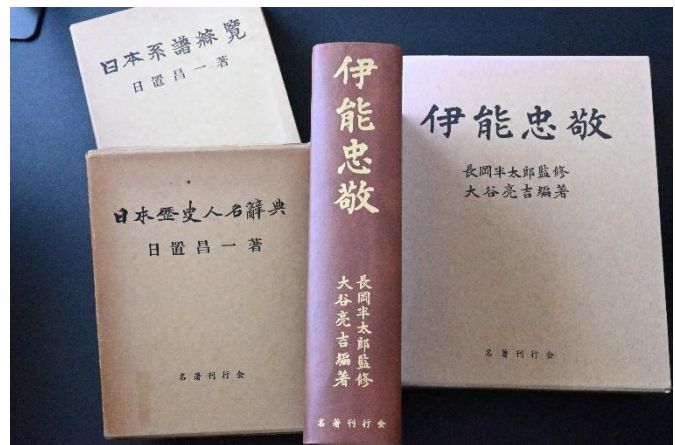
なぜか体育の先生は常にジャージ姿で首からストップウォッチをぶら下げていました。そんなストップウォッチに憧れもありました。日本製としては特に「セイコー」が有名でした。いまでは視認性の優れたデジタルが当然主流です。そんなストップウォッチも徐々にスマホに食われているようです。

このストップウォッチは東京時計製造株式会社が作っていたモノで半世紀近く前のものです。試しに電波時計の秒数と測り比べてみても誤差はありませんでした。ゼンマイを巻いてそれが戻るのを利用して動かしているだけなのにその精密さには驚きます。ただこれも実際に使うことはなくインテリア化しています。



【本】

本が大好きな私は電子書籍は一切使用していません。電子書籍は本ではなくテキストであると思っています。考え方が古いかもしれませんが、本としての実際の重みを感じ（古い本は重量のある鈍器本が多い）、ページをめくる感触がないと読んだ気になりません。また装丁を含めた見た目もあわせての本です。古本はその装丁が美しいものが多いので、たまに古本屋を巡り未知の本との出会いを大切に



しています。その美しい装丁で衝動買いし（今ではジャケ買いという）読んでみたら面白かったという出会いを何度となく経験しています。普段読まなかったジャンルを手に取り、その世界にはまるという経験も積んでいます。今、街から小さな書店がどんどん無くなっています。書店主の高齢化が進み、後継者がいないそうです。私がよく訪れる藤が丘駅近くの古本屋も90歳台の店主が一人で切り盛りし、あと3年は続けたいと言っています。購入者としてこれからも貢献していきたいです。

【ヒト】

モノではありませんが、ヒトからの経験談は貴重なものです。前出の祖父は若いころ（先の戦争時）は戦闘機を作る仕事に携わっていました。正月などに親戚一同が集まり、酒などで気分がよくなるとその経験談を語っていたものです。ただ当時中高生だった私はそんな話は興味が無くそそくさと逃げ出していました。今思うとなんとバカなことをしていたのでしょうか。きちんと向き合いお話を聞くべきでした。そしてメモをとり記録に残し現代に伝えていくべきでした。過去の貴重な経験談を後世に確実に伝えていく。これも広報活動の一部でしょう。

これらのモノは部品を交換し（部品が無ければ作り）、メンテナンスをすることでまだまだ使うことができ（趣味としてですが）、後世に残せます。今使っているデジタル機器は100年後残っているでしょうか。たまには古いモノを思い出して愛でてみましょう。

さてこの原稿、愛用の万年筆で原稿用紙に手書きで・・・というわけにはいかず、Word を使用しました。



(広報委員 川北貴利)

事務局からのご案内

5月の入会者

いくた かずや
生田 和也 (豊田支部)

愛知第 3106 号
〒473-0924
豊田市花園町小泉 1 番地
14 の砦 202
TEL 0565-54-1954
FAX 0565-54-1959

あちわ ふみのり
阿知波 郁徳 (岡崎支部)

愛知第 3107 号
〒444-0837
岡崎市柱二丁目 5 番地 1
鳥ビル 3D
TEL 0564-77-7249
FAX 0564-77-5000

くろだ まゆ
黒田 麻有 (岡崎支部)

愛知第 3108 号
〒444-0849
岡崎市戸崎新町 5 番地 33
TEL 0564-54-8505
FAX 0564-54-8506

退会者

伊藤 之勇 (東三支部)
愛知第 1520 号 / 昭和 49 年 6 月入会

事務所の TEL・FAX の変更

土地家屋調査士法人村上合同事務所
18-0025
樹神 朗 (名古屋西支部)
愛知第 2448 号
TEL 052-446-0430・FAX は設置なし

事務所の FAX 新設

佐久間 康 (昭和支部)
愛知第 3101 号
FAX 052-881-6595

事務所変更

野村 一馬 (一宮支部)
愛知第 2729 号
〒493-8001
一宮市北方町北方字中土取 183 番地 2
TEL 0586-85-7920・FAX 0586-85-7921

伊藤 達朗 (岡崎支部)
愛知第 2503 号
〒472-0015
知立市谷田町本林三丁目 1 番地 4
ニナガワビル 2A
TEL 0566-95-9201・FAX 0566-95-9202

古川 達也 (岡崎支部)
愛知第 3078 号
〒444-0213
岡崎市坂左右町字堤下 61 番地 1
TEL 0564-52-7607・FAX 0564-74-0508

土田 貴生 (豊田支部)
愛知第 2853 号
〒470-0217
みよし市根浦町三丁目 6 番地 1
Antoine206
TEL 0561-76-2755・FAX 0561-76-2766

土地家屋調査士法人の事項変更

土地家屋調査士法人ファミリア
(名古屋北支部) 18-0013
使用人調査士の雇用：愛知第 3100 号 稲田 哲士

土地家屋調査士法人アクア
(一宮支部) 18-0045
〒493-8001
一宮市北方町北方字中土取 183 番地 2
TEL 0586-85-7920・FAX 0586-85-7921

土地家屋調査士法人児玉測量設計
(岡崎支部) 18-0036
使用人調査士の退職：愛知第 3078 号 古川 達也

業務に関するお知らせ（4月17日から5月18日まで）

- 4月24日 戸籍謄本等職務上請求書の送料改定について
- 4月24日 民法等の一部を改正する法律の施行に伴う不動産登記事務の取扱い等に関する民事局長通達の一部差し替えについて
- 4月24日 隣地使用权に関する手引きについて（差替）
- 4月24日 経済構造実態調査の事前周知について
- 4月28日 会員において発生した情報セキュリティインシデント情報共有について
- 5月1日 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付け変更後の療養期間の考え方等について
- 5月1日 人権擁護委員適任者に関する人材情報の提供について
- 5月2日 書籍のあっせんについて
- 5月9日 参考図書「表示登記教材『建物認定』（4訂版）」の追加募集について
- 5月9日 令和5年度第1回定例研修会の開催について
- 5月15日 民事月報購読申込のご案内

以上、ホームページ>会員の広場>通知・通達、お知らせへ掲載しました。



表紙写真 「機中から見えたオーロラ」

名古屋西支部 近藤正行 撮影場所：ヘルシンキへ向かう飛行機の中

◆偶然（必然）にもヘルシンキへ向かう飛行機の中から見えたオーロラです。真横にオーロラが見えました。

編集 後記

まもなく梅雨の季節です。雨でジメジメした日が続きますね！雨を楽しく感じるか嫌だと感じるかは自分の気持ち次第です。事務仕事をドシドシこなしましょう（笑）！
愛知会、梅村会長の2期目がスタートします。自分としては6年間の広報部、広報委員会の役職が終わりますが、今後は会員として愛知会の活動にできるかぎり関わってきたいと思います。
(広報委員長 藏座卓也)

- 発行日 令和5年6月1日
- 発行所 愛知県土地家屋調査士会
〒451-0043 名古屋市西区新道一丁目2番25号
TEL 052-586-1200
- 発行人 梅村 守
- ホームページの URL <https://www.chosashi-aichi.or.jp>